

園芸技術情報 (9)

平成 22 年 1 月 25 日
JA たんなん 営農指導課

先々週降雪時に管内ハウス（鯖江市内）の巡回をしましたので、気になった点をお知らせします。[（営農指導員には 14 日通知済みの情報）](#)

- 1、**ハウスサイドの除雪が不徹底**。特に肩の低いハウスはサイドの除雪を徹底してください。（写真 。写真 ハウスのサイド除雪状況）
- 2、ハウス内の温度がマイナスとなっているため、屋根上の雪がハウスに固着し、積もりやすくなっている。**15m に一台程度家庭用ストーブを置くことで滑落を促進できる**。（写真 の左側のハウスは雪が固着している。写真 ハウス内のストーブ設置状況）
- 3、天窓換気や、巻き上げ部分に雪がひっかかり、積もっているところが見られるので必ず落としておく。（写真 ）
- 4、融雪散水がかなり使われているが、部分的に水量が少なかったり、ノズルの方向が適正でないため融雪がうまく行ってない部分が見られる。（写真 ）

ハウスは耐雪型だから大丈夫と高をくくっている方がおられますが、基本的にパイプハウスは絶対大丈夫と言うことはありません。除雪、排雪、融雪が間に合わない場合は、ハウス間の雪を踏みつけてでも肩部以上に積雪することを回避する。場合によっては、ハウスのサイドビニールを落としてハウス内に雪を入れる。最悪の場合は、ハウス天井のビニールを切る。このときパイプに沿って額縁状に切り取らないと屋根面の雪は落ちてこないので留意する。

また、写真 のように支柱で補強されているハウスも見られます。このハウスは積雪加重に対応するため、支柱の下方はコンパネを 40cm 四方に切った板を当て、沈み込みを防止している。ただ留意すべき事項としては、吹雪になった場合は瞬間的にハウスが浮き上がり、支柱そのものが揺れ動くことにより、その役目を十分に果たせない場合もあるので充分注意しなければならない。

そのほかビニールをまくってあるハウスにおいては、下段の裾ビニール取り付けのための横通しパイプが雪に埋もれている場合、積もった雪の沈下に伴い、パイプが地面の方に引き下げられ曲がりが発生する場合があるので状況を見て部分的に除雪する必要があります。

ハウスサイドに地下水を散水して融雪される方も多く見受けられますが、散水は降り始めから行うこと、**地下水位の低下により水が出なくなることもよくありますので注意**してください。



先週ホーレンソウのハウス巡回をしていて気になった点について述べます。

1、塩類集積

多くのハウスで塩類集積の兆候が見受けられます。土壌中の肥料分が水に溶け土壌表面に運ばれ、水分の蒸発により土壌表面に塩類が集積しており土壌表面が白く変色している、土壌水分の多いところは緑色のコケが密生している、栽培されている軟弱野菜などの葉色が非常に濃いなどが見受けられます。また、ホーレンソウにはケナガコナダニの寄生が多く見られる他、発芽不良、石灰欠乏症状などが観察されます。



2、ホーレンソウのケナガコナダニについて

このダニが問題になり始めたのは30~40年位前からでそんなに古い話ではありません。施設栽培において堆肥の投入が盛んになるにつれその被害が問題となってきました。ケナガコナダニ自体は昔から湿気を含んだ畳にわく衛生害虫として、その糞や死骸の体内取り込みでアレルギーを起こす一因とされていました。近年、畳にわくケナガコナダニとホーレンソウに奇形を起こすケナガコナダニは微妙に種類が違うようであると区別されるようになってきました。ちょうど季節性のインフルエンザと新型インフルエンザの拮抗作用みたいな関係で、ハウスの中にもケナガコナダニ間の拮抗作用が存在しているらしく、ハウスの中にケナガコナダニがいるにもかかわらず被害が殆ど見られない例もあるようです。このダニは、有機物特にワラや糠を好んでエサとするようで、未熟の堆肥や油粕・ボカシ肥料の施用が原因で発生密度が高まっているようです。また、糠そのものを散布してあるハウスも見られますが、このダニをわざわざ増やしているようなものです。このダニの体長は0.3~0.5mm程度と非常に小さくまた、体が半透明(写真)なので肉眼では大変見難いのですが、ホーレンソウは寄生されると展開葉に小さな穴やコブ状小突起がみられ(写真)、特に新芽や新葉部には加害が集中し縮葉・奇形となったり葉縁の組織が褐変したり(写真)する。



防除対策

一度被害を蒙った圃場は必ず発生するので以下の軽減対策とあわせ、薬剤防除を行う必要がある。定植前にはネマモール粒剤 10a 当り 30 kg土壌混和する。生育中はDDVP 乳 50 を 1000 倍で 3 回以内の散布で 1 回目は本葉 2~4 葉までに行う。ただ DDVP 乳は製造中止となっているので流通在庫のみとなる。新たにカスケード乳剤が 4000 倍 3 回以内 3 日前までの登録が取れているので本剤で対応する。

被害軽減対策

- 1)堆肥の熟度と施用時期の見直し・・・未熟堆肥施用はダニの密度上昇を促進する。また、ダニの好適生育時期の初春と晩秋の施用を避ける。
- 2)早期発見・・・生長点の観察、とくに5cm以内の新葉の掻き傷(褐色の傷)を探し適期防除に努める。
- 3)肥料の見直し・・・有機質肥料の毎作施用は常にエサをやっているのと同じで、施肥体系を見直す。
- 4)ホウレンソウ残渣の持ち出し・・・残渣の鋤きこみはダニにエサをやるのと同じである。残渣はハウス外に持ち出し、50cm以上の地中に埋め込み、または焼却する。
- 5)土壌消毒・・・太陽熱・蒸気・熱水等の土壌消毒と薬剤を組み合わせる。
- 6)ハウス周辺の雑草の除去・消毒・・・エサと棲み家・逃げ場をなくす。
- 7)品目の変更・・・高密度圃場では好発時期の作付け品目を変え密度上昇を防ぐ。

以上の点を踏まえて、ダニ密度の上昇を抑えてください。特にこのダニはホーレンソウのほか、トマト、キュウリ、メロンなどにも寄生するとされているので、徹底的な防除が必要です。

